

文 樂 評 切 拔 帳 (三 月)

傑作・榮三の戸奈瀬

山 口 廣 一

三月の文樂では人形の玉造が急病で休演した。わづか一人の玉造だが今日の手薄い人形陣には相當こたへる。このため晝の部の「加々見山」の又助は玉市が代役してゐるのだがさすがに玉造ほど手強く行かない、それに政總の女房お大もさしてよくないのでこの比較の珍らしい「又助住家」も總じて人形に見るべきものなく、ただ床の大隅が地力を發揮して相當面白く聴かせてゐたのを認める。

夜の部では「忠臣蔵道行」における榮三の戸奈瀬が文五郎のそれとはまた別趣の風格があつて立派な傑作である。蓋し今月の文樂くるめてこの悠揚迫らざる榮三の戸奈瀬が第一の見ものであらう。

古靱の「毛谷村」はこれも今日としては第

一級のものには違ひないが、語り口が入念に過ぎて飛躍に乏しく、どうやら屈託を感じさせたのは一考したい。最後の織太夫の「合邦」は力一杯の藝でむしろこれが「毛谷村」の情氣を一掃させてゐたなどは時にとつての功績とでもいふべきか。人形では多少役違ひだが光造の玉手が一應は遣へてをり、その他では小兵吉の老婆が依然として素晴しく、門造の合邦は段切のあたりに工夫があつた——毎日新聞

大隅の『又助住家』

古靱の『毛谷村』

林 秀 雄

此月の文樂座晝の部通し狂言「加賀見山」は價值から言つても先月の「一の谷」には及ばないしまた吸引力も弱い。「又助住家」が大隅の語り場として出てゐるが、之も「加賀見

山廓寫本」のセツ目で無理な通し様である。大隅は氣を入れて語つては居るが、作其物が大了なものではないので又助手負の物語だけが清二郎の紋、人形と相俟つて面白い程度。なほこの「又助内」の道具は「逆勝手」の一つだが之は槍の立廻りがある爲ではなからうか。

「廓下」を演太夫が語つてゐるが年齢的に言つてもあれなら點は入れられる。之に對して重太夫の「長局」は大分困りものだ。まだしも前後を伊達太夫と替つて貰ひたかつた。

人形の方では光之助改光造が尾上を遣つてゐるが、矢張間の持切れぬ處もあり又紋十郎のお初との意氣もよく合つてゐなかつたりして今一息といふ處。龜松の岩麿ももつと動かずに居て憎し味が出れば及第。榮三郎の求女がよい。

此月の古靱は會社側の註文とやらで「彦山權現誓助劍」の九ツ目六助住家だが考へて見れば變なものを出したのも。芝居では兎も角淨瑠璃では矢張せめてお園出立位から出さぬと少々呆氣ない。古靱の語り口は勿論六助に力を入れて語つてゐる。初めの彌三松と二人の間から氣を入れてゐるし、お園とのやりと

りの間も捨て難い味である。

先月は病氣で大半を休んだ文五郎は今度はお園一役で、ヘチリくからへ母と妾が憂き苦勞の邊で鮮かな片手遣ひで元氣一杯の處を見せ、榮三の六助も相不變手堅くお園との意氣もよく合つて面白い。

織太夫の「合邦」は達者には語つてゐるが段切の哀愁感の浅いのはこの曲の六ヶ敷さを意味する。例の「オイヤイ」も未完成の藝に終つてゐる。人形では光造の玉手御前が、晝の尾上よりは動きが多いので割に見られる。

合邦は門造だが矢張榮三の親子の情愛の濃いには及ばない。——讀賣報知

織太夫の健闘

文樂夜の部は新作を混て四狂言で第一忠臣蔵の「旅路の嫁入」は人形の美しさのみ殊に榮三の戸無瀬は「つたのほそ道もつれあひ」「嬉しからうとほのめかす」等で美しい形をみせる。

新作「偲ぶ倅」は例によつて西亭氏の作並に作曲「忠靈」「出陣」等と違ひ「國威は振ふ」「水漬く屍」等に對す不満は人形の動きの少ないことである。然し度々の新作上演で人

形の方もやつと新作に馴れたといふ感じ、榮三の母がやはり一番立派で榮三郎の田勢子夫人は動きがなく一工夫も二工夫も要す

「毛谷村六助住家」は古靱の語り物、物語自體としては凡そ愚劇の中に入るものを一通り面白く聞かせたのは古靱の藝で流石と思ふが紋下は紋下の價値を掛けて優れた物語の中にひそむ傳統的精神を新しく觀客の心にぶつつけて欲しい、文五郎はこの段のお園のみを遣ふが女ながら仇を窺ふ強い氣象と娘心の艶を表出して氣を吐く。

最後の「合邦」は一番聞きごたへのある立派なもの、前を語る呂もこゝ當分の不振から誕生して十分開けたし、後の織が前月に引續いて又してもヒットを放つ、殊に最後の百萬遍のあたりからは一方は死他方は更生といふ暗と明最大の悲哀と最大の歡喜とが同時に湧き起る此世の一大ドラマの展開は織の全力を傾注しての熱演に強い感銘を與へる、門造、小兵衛、光造級の人形では太刀打ち出來ず完全に太夫に押されてしまつた、人形本位に引きずられる傾向をみる文樂にとつてはこれは近來の痛快事——大阪新聞

新作偲ぶ草

文樂の「偲ぶ倅」は空の軍神の母堂と夫人が戦死の報を受けても動ぜぬのを描いた西亭氏の新作で、仰山な芝居をせずに日本婦人の強さを示し、淨瑠璃、人形との逕庭を出さなかつたのは成功である。榮三の母堂は時代女形の味をこれに生かしてゐるし、榮三郎の夫人も好演を認めたい。(K)——朝日新聞

關西國民演劇獎選

大阪興行協會が情報局贊助のもとに昨秋十月より三月末の半期に亘つて大阪府下に行つた第二回關西國民演劇選奨は参加作品十四を審査の結果、今回は優秀推奨に値するものはなしとして、左記のものに獎勵賞を與へた

△第一部(一ヶ月興行、獎勵賞關西歌舞伎「義經千本櫻通し」(歌舞伎座十月)、關西歌舞伎「梅田雲濱」(歌舞伎座一月)

△第二部(十日間興行)獎勵賞新興演藝劇團新進劇「アジャの弟」(浪花座二月)

△第三部(七日間興行)獎勵賞梅田舞踊隊「必勝への道しるべ」(梅田映畫劇場)